

正式には、神様を招き、来て頂いて
から唱え捧げる祝詞が多いです。

主体として唱える経典・祝詞を記
載してあります。

かいきようげ

開經偈

むじようじんじんみみようほう ひやくせんまんごうなんそうぐう がこんけんちんくじゆじ がんげしんぶつしんじつぎ
無上甚深微妙法 百千万劫難遭遇 我今見聞得受持 願解神仏眞實義

（この上、比べるものなく深く尊い、この神仏の教えは、長い時をかけても出会うことは困難であります。）

わたしは、いま、幸いにも巡り合い、手にする事ができました。

ただ願うところは、神仏の本當の教えを体得したいものです。）

ざんげぶん

懺悔文

がしやくしよぞうしよあくごう かいゆむしとんじんち じゆうしんごいししよしろう いっさいがこんかいざんげ

我借所造諸惡業 皆由無始貪瞋痴 從身語意之所生 一切我今皆懺悔

（私が、過去に行つた過ちは、全て、始めもわからない深い貪り、怒り、愚かさの三毒によるものです。）

それは、身体の行い、口の行い、心の行いの、三業から生まれ起きたものです。

全てを、私は今、神仏の教えに、照らされて懺悔致します。）

じゅうぜんかい

十善戒

でしむこう

じんみらいさい

ふせつしょう

ふちゅうとう

ふじやいん

ふもうご

ふきご

ふあつく

弟子某甲

尽未来際

不殺生

不偷盜

不邪淫

不妄語

不綺語

不惡口

ふりようぜつ

ふけんどん

ふしんい

ふじやけん

不兩舌

不慳貪

不瞋恚

不邪見

(神仏しんぶつの弟子でしとなつた私は、わたし未来際むらいさいに至るまで、いかなる生命の殺生を故意に致しません。

人のものを故意こいに盗みません。

ふしだらな行為こういをしません。

嘘偽うそいつわりを言いいません。

心こころにもない綺麗きれいごとを言いいません。

人の悪口わるぐちを言いいません。

信用しんようを失うしなうことを言いいません。

物惜ものおしみせず、欲よくばつたりしません。

怒いかり憎にくむことをしません。

業報・因果・縁起・輪廻の、間違まちがつた考かんがえ方かたをしません。)

はつぼだいしんしんごん

発菩提心真言

(三返)

おん ぼうぢ しった

ぼだはだやみ

(私は、悟りを求める心をおこします。)

さんまやかいしんごん

三摩耶戒真言

(三返)

おん さんまや さとばん。

(私は、神仏と一体平等であります。)

こうみようしんごん

光明真言

(七返・二十一返・百八返・千八十返)

おん あぼきや べいろしゃのう まかぼだら

まに はんどま じんばら はらばりたや うん

(自身の身体じしん からだから七色の虹なないろ にじの光こうがでていると観想くわんさう(イメージ)して、軽く目を閉じ、われ せかい こんてい「我と世界の根底から願う、なすべきことを現実げんじつにする実行力じっこうりよくよ あまねくゆきわたる存在力そんざいりよくよ、生命せいめいに宿れる向上力こうじょうりよくよ、自他じたを大事だいじにする、生うみ出す意思力いしりよくよ、苦くるしみを見みのがさない観自在力かんじざいりよくよ 生きとし生けるものさいわの幸さいわいを、生き生きと活動かつどうあれ努力どりよくあれ」と念ねんじて唱となえる事こと。)

※観想くわんさうすること、じっさい なないろ にじ ひかり からだ はな実際に七色の虹の光が身体から放たれるようになる。

▲記号が表示されていたら、光明真言を三遍復唱する事。

(お経は基本、雨がシトシト降る様に、一漢字の字を二拍でよみますので延ばすーが次山入っております。)
ぶっせつま かはんにははらみつたしんぎよう

仏説摩訶般若波羅蜜多心經

かんじーざいぼーさつ ぎようじんはんにやはーらーみったーじー
しょうけんごーうんかいこう どーいっさいくーやく しやりーしー
しきふーいーくう くうふーいーしき しきそくぜーくう くうそくぜーしき
じゅうそうぎようしき やくぶーにようぜー しやりーしー
ぜーしょうほうくうそう ふーしょうふーめつ ふーくーふーじよう
ふーぞうふーげん ぜーこーくうちゅう むーしきむーじゅうそうぎようしき
むーげんにーびーぜっしんに むーしきしょうこうみーそくほう
むーげんかいないうしー むーいーしきかい むーむーみようやく
むーむーみようじん ないしーむーろうしー やくむーろうしーじん
むーくーしゅうめつどう むーちーやくむーとく いーむーしよとくこー
ぼーだいさったー えーはんにやはーみったーこー
しんむーけーげー むーけーげーこー むーうーくーふー
おんりーいっさいてんどうむーそう くーぎようねーはん

さんぜーしょうぶつ えーはんにやはーらーみったーこー

とくあーのくたーらーさんみやくさんぼーだい

こーちーはんにやはーらーみったーぜーだいじんしゅ ぜーだいみようしゅ

ぜーむーじようしゅ ぜーむーとうどうしゅ のうじよういっさいくー

しんじつふーこー こーせつはんにやはーらーみったーしゅ

そくせつしゅうわつ

ぎやーてい ぎやーてい はーらーぎやーてい はーらーそうぎやーてい

ぼーじーそわか

はんにやしんぎよう。 ▲

えんめいじゅつつかんのんきよう

延命十句観音経

かんぜーおん なーむーぶつ よーぶつうーいん よーぶつうーえん

ぶつぽうそうえん じょうらくがーじよう ちようねんかんぜーおん

ぼーねんかんぜーおん ねんねんじゅうしんきー ねんねんふーりーしん。 ▲

※この不動明王大咒の真言は、しつこい悪霊除霊の時に使う真言である。

強烈に、悪霊を弾き飛ばす事が出来る。必ずページ表記の、独鈷印を手に作り握りしめ、不動明王を想念し

（不動明王と書いて見つめても良い。又は、梵字のカーンを想像してもよい。参照）、真言を三回以上唱える事。

憑いている悪霊が、あなたにしがみ憑く、その手の指が、逆にねじ曲がり、折れていく。

悪霊が怪我をする為、あまり、使わない事をお勧めする。



不動明王梵字（カーン）



不動明王印
独鈷印

ふどうみようおうしんごんたいしゅ

不動明王真言大咒

※礼をして、不動明王の字を思い浮かべるか、梵字を思い浮かべる。不動明王の像を見つめる。

ふどうみようおうさま ただい きせき ちから も

不動明王様、多大なる奇跡の力を以って、

わたし ふ そそ すべ わざわ

私に降り注ぐ、全ての災いを、いつも、食らいつくし、焼きつくして、

くだ ありがと ごぞ

下さいまして、誠に有難う御座います。

※独鈷印を必ず結ぶ

なうまく さらば たーぎやていびやく (二合)

さらば ぼつけいびやく (二合) さらばた たら (二合) だ (半音)

せんだ まかろしやだ けんぎやーきぎやーき

さらば びきんなん (二合)

うんたら (二合) たー かんまんー。▲

大元造化三神報恩之祝詞

(だいげんぞうかさんじんほうおんののりと)

※この祝詞は神前でも唱え、無形の空を仰ぎ奏上する祝詞です。

かけまくも いとも かしこき あめつちの もとつかみ

あまのみなかぬしのおおみかみ たかみむすびのおおみかみ

かむみむすびのおおみかみたちの くすしく たえなる

みたまの ふゆによりて この うつしよに あれいでたる みにし あれば

そのもとつ みめぐみに むくい たてまつらむとして

ただへごとを へまつらくは いやたかく そこひなき

たかまのはらの かくりよを しめ たまひ

はじめもなく おわりもなく ときはに かきはに しづまり まし まして

めにみえぬ もとつけは ももたらず やその かみけを なし たまひ

めにみゆるものは ひのみくに つきのみに ほしのみくに

またこれの おおつちに ありては

うつしき あおびとくさを はじめ いきあるも いきなきも よにありとし

あるものの かぎりを うむしいで うしはき まもり さきはえ たまえる

みいさおの おおき ひさしき ひろき あつき おおむ いくしみを

かがふりて このうつしよに あらむ かぎりは

おおみかみたちの もとつ みこころの まに まにに

この ころを つくして うむことなく

この みを つとめて おこたる ことなく

うやまひ かしこみも つかえまつる さまを たひらけく やすらけく

きこしめして よよのくにの あおびとぐさをして

あめつちの かみわぎに たがは しめず ひらけ よにおくれ しめず

くさぐさの わざわいなく つつがなく あらしめ たまえ

よのまもり ひのまもりに まもりめぐみ さきはえ たまえと

みそら はるかに おろがみ まつらくと もおす。

産土神祓祝詞

(うぶすなのかみのはらいのりと)

かけまくも いとも かしこき あめつちの もとつかみ

あまのみなかぬしのおおみかみ たかみむすびのおおみかみ

かむみむすびのおおみかみ

かけまくも かしこき あまてらす おおみかみ うぶすなのおおかみ

ちんじゅのおおかみを はじめ

いとも ありがたき わがしゅごの ごそんざい たちの

おおまえを おろがみ まつりて かしこみ かしこみも まをさく

おおかみさま ぶっそん たちの

たかき とうとき こうみようを いつも いただき

ひろき あつき みたまのふゆと ごぶつとくを

うみの この いや つぎつぎに たまわり めぐみ たまひ

われは てんちしぜんのだおりにしたが いおかげさまの ところを もちて

われの じんせいを たいせつにして われとかぞくを ねぎらい

はげまし かんしゃして ところに えいようを あたえ

なりわいに はげみ てんしょくに ならしめ たまひ
わが いちれいしこんと ところが いやますますに
せいちょうしようじょうし ところがけ みすこやかに

よろづの ねがうこと かなえ たまひ

うぶすなの しんぶつは ゆうけん ちょうわの しんぶつにて

うつしよを さりぬ のちは たかき れいかいに はいらしめ たまひ
じょうどへと みちびき たまひ

うつしよも かくりよも たのしみ よろびの かわることなく

みこころも なごやかに きこしめして まもり めぐみ さきはへ たまひ

いへかど たくく いやたかに いやひろに さかえしめ たまふことを

いんよう ちようわ された うつくしき だいしぜんの ちきゅうじんるいの

へいわ はってんの ために つくさしめ たまひ

もろもろの まがごと つみ けがれを

はらひ たまひ きよめ たまふと もおす ことの よしを

あまつかみ くにつかみ やおよろづの かみたたちと ともに

きこしめせと かしこみ かしこみも まをす

天津祝詞（あまつのりと）

たかまのはらに かむづまります

かむろぎ かむろみの みこと もちて

すめみ おやかむ いざなぎの みこと

つくしの ひむかの たちばなの おどの

あわぎはらに みそぎ はらひ たまふ ときに

あれませる はらへどの にじゅうろくしんの おおかみたち

もろもろの まがごと つみ けがれを

はらひ たまひ きよめ たまふと もおす ことの よしを

あまつかみ くにつかみ やおよろずの かみたちと ともに

あまの ふちごまの みみ ふりたてて

きこしめせと かしこみ かしこみ もおす。

柳山山神祓祝詞

(やなぎやまやまのかみはらいのりと)

たかまのはらに かみとどまり まします

すめむつ かみろぎ かみろみの みことを もちて

さつませんたいしの やま たはたを おまもり くださり

おおくの やまの さちを おめぐみ くださる

たかえのちに そびえたつ やなぎやまに すまわれる

やなぎやまおおやますみおおやまがみを たてまつりて

あをとのにきて みもと

しらとのにきて みもとを ひとつらに おきたてて

くさぐさの そなえもの おき たかなして

かみほぎに みほぎ たまへば はや きこしめして

あしきこと とが たたりは あらじものと

はらひ たまひ きよめ たまふ よしを

やおよろづの かみたち もろともに きこしめせと もうす。

神言（かみごと）

※言霊の大祓祝詞

たかあまはら おのころに かみづまいます

すめむつ かむろぎ かむろみの みこと もちて

ち よろづの かみたちを かむつどへに つどへ たまひ

かみはかりに はかり たまひて

したつ いわねに みやばしら ふとしきたて

たかあまはらに ちぎ たか しりて

いづの かむたからの おおみこころの まにまに

あまつ かなぎを もとうちたち すえうちたちて

ちくらに おきくらに おき たらはして

あまつ すがそを もとかりきり すえかりきりて やはりに とりさぎて

あまつのりとの ふとのりとを のれー、

「むー ひと ふた みー よー いつ むゆ なな やー ここの たり ももち よろづ

いろはにほへ とー（強）

かなながら たまちはへませ かなながら たまちはへませ

ひふみよいむなやこともちろらね
しきるゆるつわぬそをたはくめか
うおゑにさりへてのますあせえほれけ
ふるべ ゆらゆらと ふるべ

とほかみえみため

きのえ きのと ひのえ ひのと つちのえ つちのと かのえ かのと みずのえ みずのと
はらひ たまひ きよめで たまふ

とほかみえみため

ね うし とら う たつ み うま ひつじ さる とり いぬ い

はらひ たまひ きよめで たまふ

とほかみえみため

かん こん しん そん り こん だ けん

はらひ たまひ きよめで たまふ

はらひ たまひ とほかみえみため

きよめ たまふ とほか みえ みため
めぐみ たまふ とほか みえ みため

おーおーおー

タカアマハラ ナヤサーー▲

かくのらば かみがみは おのも おのもの いわとを おしひらきて
いづの ちわきに ちわき たまひて きこしめさむ かく きこしめしては
あめのくに うつしくに ともに つみと いふ つみは あらじと
しなどの かぜの ふきはなつ ことのごとく

あさかぜ ゆうかぜの ふきはらふごとく

おおつべにいる おおふねを へときはなち ともときはなちて
おおうなばらに おしはなつ ことのごとく

のこる つみも けがれも あらじと

はらひ たまひ きよめ たまふ ことを

よしはらへ あしはらへ たまひて いやさかの みよと こそ
さきはへ たまえ さきはへ たまえ。

言霊賛祝詞

(ことだまたたえのりと)

かけまくも あやに かしこき おおみかみは

かくり みにして ことだまに かよい あらわれ たまう

ことだまは ありて ある とわの いのち ひかりなり

「ん」の ちちに ゆわえ

「あいうえお」の ははに ひらき

「ぬ・ふ」を みなかとして こに うまれ

いつつとうねをつくるともに やみにまよい うめきて あれくるうなり

これひとえに われの なせし おこないの むくい おのの えにしによる

あらわれ なりと みたまたちは ふかく かえりみ はちくい おそれ

さとりて おおみかみの みちからにより すみやかに つみ げかれを

やきはらい あらい きよめ たまえ

あめつちは

「きまる」の みよを むかえ みろくの みよを あらわすため

みくきの くにの みたまを ときをとoshi ひとつに つらぬき ゆわえ たまう

おおみこころにより いま みたまたちは おおみかみの
み すくい み いくしみを うるの ときに あえるなり
このゆえに かくりよにます ひとの みたま もろもろの みたまは
まなこを ひらき おのも あわせ はなれて ことの はの あやとなり
たま ものを とおし もちろんねの かきもの おしえになり
ちえを あたう

ことだまは あめつちに みち よもに かよい むかしより
とわに いき とおす

ひとは ことだまに よりて たまおきの つとめを はたし
ことだまの ますみに すみきる とき

もと ひとつの おおみかみに つらぬきて みな かよう

「ことだまは かみなり かみは ことだまなり

ことだまは さきはえ たまえ さきはえ たまえ」

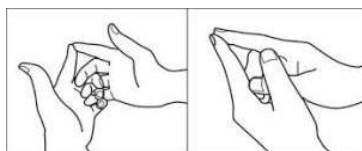
と たたえことを かしこみ かしこみも もおす。

(ホツマ伝え) 天津祓 (あまつはらせ)

※「とほかみゑひため」の言霊は、願望実現の為の究極の言霊である。一切の罪穢れを祓い、福寿をもたらす大祓詞の秘詞である。

とほかみゑひため とほかみゑひため とほかみゑひため とほかみゑひため とほかみゑひため

天津祓い方位別唱え言葉



左図の様に鎮魂印を結ぶ

いちれいかんほど

と 一靈感程

1、南を向き

きいつ

み 帰一

2、南東を向き

げんきまんしん

た 元気万進

3、東を向き

かいき

ほ 回歸

4、北東を向き

いっさいまんぎょうしん

ゑ 一切萬行進

5、北を向き

まんぼう

め 萬寶

6、北西を向き

せいめいじょうずほど

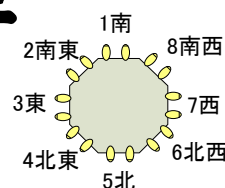
か 生命成就程

7、西を向き

しよえん

ひ 所縁

8、南西を向き



※図表に沿って、方位別に唱え言葉を唱える事。

とほかみゑひため とほかみゑひため とほかみゑひため とほかみゑひため とほかみゑひため

○はらひ	たまひ	○と	ほ	か	み	ゑ	ひ	た	め
○きよめ	たまふ	○と	ほ	か	み	ゑ	ひ	た	め
○めぐみ	たまふ	○と	ほ	か	み	ゑ	ひ	た	め

(三返・五返・七返・二十一返・百八返・千八十返)